



垂水区医療介護サポートセンター  
ごしまろくんの  
サポートセンター便り 第8号

発行：垂水区医療介護サポートセンター  
住所：〒655-0038  
神戸市垂水区星陵台4丁目4-37  
垂水区医師会内  
TEL：078-785-1166  
FAX：078-785-1167

## 在宅療養生活を支える訪問看護師の役割

平素より医療介護福祉の関係者様には、大変お世話になっております。今年度より兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会 神戸垂水ブロックで会長を務めさせていただきます、クリオ訪問看護・リハビリステーションの佐々木啓と申します。

私は看護師免許を取得後、急性期病棟で勤務していました。病院勤務時代、病気に対する「治療」に焦点を当てた看護を提供する中で、治療を終え自宅へ退院した患者様が、しばらくすると再入院してくるといったケースが決して少なくなかった。そのような経験を重ねる中で、病棟看護師が退院支援を行う上で、何よりも「その人の暮らし」を知る必要があると考えるようになりました。そんな状況の中、現在所属しております訪問看護ステーション現代表と管理者と出会い、地域で在宅療養者の「暮らし」を支えている訪問看護ステーションの想いと熱意に心を打たれ、私自身も「暮らし」を支える訪問看護師として地域の方々の力になりたいと思い訪問看護師の道を選びました。



兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会  
神戸垂水ブロック会長 佐々木 啓(前列左から2人目)

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会では『感染症・災害に負けない組織作りをし、訪問看護の力で安心な在宅生活をデザインしよう』をスローガンに掲げ、兵庫県内に設置された訪問看護ステーション間の連携を図り、共通課題に対する共同事業を行い、地域住民の在宅ケアと各ステーション及びかかりつけ医を支援し、併せて保健・医療・福祉の連携のもとに訪問看護の充実と推進を図ることを目的としています。新型コロナウイルスは3年経過した現在でも世界中に拡散しており兵庫県内でも多くの陽性者の報告が続いています。現在では「Withコロナ」へとシフトしてきていますが、コロナ陽性の療養者様へ訪問する中で耳にした隔離生活での疎外感や体調に対しての不安は今でも忘れません。

私は訪問看護師として、この地域で暮らす全ての方が、いかなる病気や障害を抱えても家での暮らしを当たり前を選択できる事、いかなる時もこの地域で暮らす全ての方の暮らしの根底にある”安心”を見守り、支えながら、一つ一つの暮らしの中にある様々な”時”をこの地域に灯し続ける事を理念に看護を提供しています。多様な生活状況、変化していく社会情勢も視野に入れ、時代のニーズ、ご利用者・ご家族のニーズに合ったサービスを創造し続け、『家に帰りたい』『家で過ごしたい』方々の希望に応え続けたいと思っています。ただ自宅へ看護を届けるのではなく、「あなたがいるから安心して暮らせる」と思って頂ける「安心」を届ける訪問看護、人生のワンシーンを作る「時」を届ける訪問看護を提供し続けて参りたいと考えています。

訪問看護ステーション連絡協議会を通して各ブロック活動の推進と地域のネットワークを強化し、少しでも地域の方々が抱えている課題を見出し、住み慣れた自宅での「暮らし」に安心を提供し続け「在宅療養」を当たり前を選択できるようこれからも精進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

訪問看護ステーション連絡協議会を通して各ブロック活動の推進と地域のネットワークを強化し、少しでも地域の方々が抱えている課題を見出し、住み慣れた自宅での「暮らし」に安心を提供し続け「在宅療養」を当たり前を選択できるようこれからも精進していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひ致します。

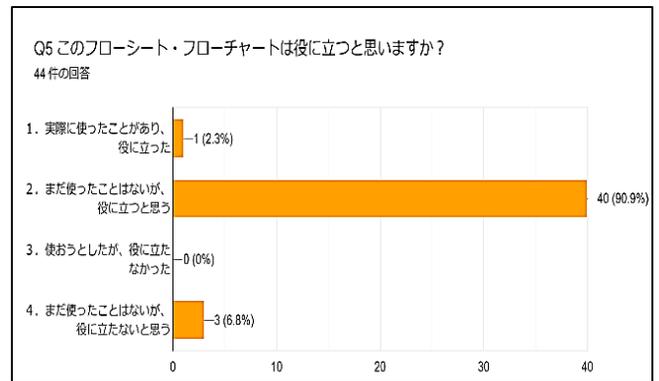
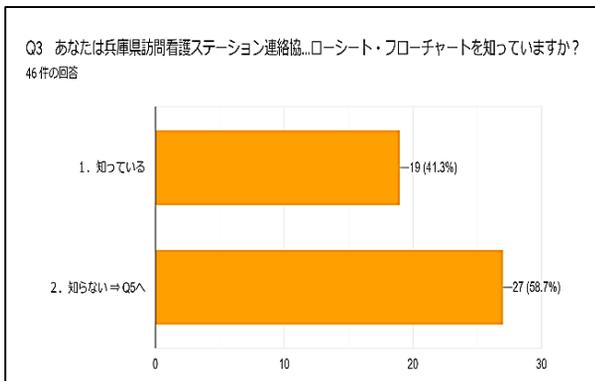
兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会 神戸垂水ブロック 会長 佐々木 啓



このフローシート・フローチャートに関し、『知らなかったのが今回確認する機会になりよかった』『新型コロナ新株の情報も多くなり、改めてしっかり理解し活用したい』とのコメントがありました。

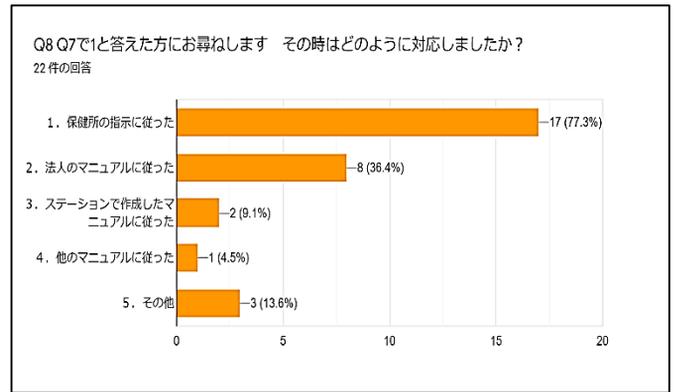
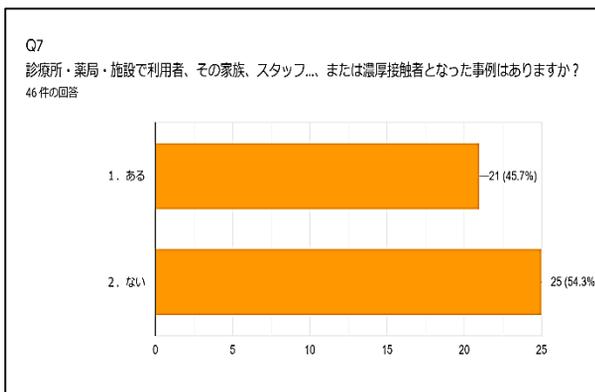
### 三師会向けアンケート結果(抜粋)

そして、最終版完成に向け垂水区3師会のご協力を頂き、歯科医師会92名、薬剤師会81薬局、医師会165名にアンケートを取りました。アンケート結果(抜粋)は下記を参照して下さい。アンケート結果として、今回「フローシート・フローチャートを知っていますか」の問いに①知っている40%②知らないが60%。その中で、「フローシート・フローチャートは役に立つと思うか」の問いは「役に立つ」という答えが93%でした。



#### 【フローシート・フローチャートが役立つ理由】

- ・ 視認性が良い為、イレギュラー対応策としては良いと思う。
- ・ 個人の感覚ではなく、統一された基準で判断できることは重要。
- ・ 実際対応した時に判断に迷う部分があったのでスムーズな判断ができた。
- ・ パターン毎にわかりやすくまとまっている為。
- ・ 職員やその家族に感染症が出た際の参考に出来た。



その他の意見として、『対象者が出た際には参考にしたい』『PRしていただき良かった』『看護師の方々が現場に出て実体験をもとに作成しており今後も参考にしたい』『一般の方々に公表してほしい』等がありました。

今回、兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会では垂水区でのアンケートのもと、フローシート・フローチャートを感染症ガイドラインの最新情報に沿って再度追加修正を行っています。兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会HPに最新版を掲載しておりますので、積極的に現場でご活用ください。

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会 検討委員会  
信川 千賀子(おかもと訪問看護ステーション垂水)

# 研修報告

## 第37回 在宅医療勉強会

令和4年4月23日(土)  
14:00~15:30  
参加人数 52名

### つながる～職種間コミュニケーション～

昨年度好評のコミュニケーション研修第2弾「つながる～職種間コミュニケーション～」を開催しました。木村和弘氏に引き続き講師をお願いし、多職種のコミュニケーション不足や齟齬、それらを阻んでいる背景などを講義していただきました。

また、講義内容が盛りだくさんであった為、予定時間に収まりませんでした。そこで、垂水区医療介護サポートセンター初のアーカイブ配信を行いました。当日の講義プラス未公開を盛り込んだ動画でした。参加者自身も研修の振り返りや新たな知見を得ることが出来たのではないのでしょうか。

《アンケート感想より》

- ・ケアマネジメント業務や職場の管理に非常に為になった。
- ・対人関係などタイプ別によってどのように接するか実践してみようと思います。講義を聞きながらワクワクしました。
- ・まずは職場内のコミュニケーションから始めていきたい。
- ・相手のタイプを見極めて接していこうと思いました。
- ・多職種連携の阻害・促進要因をもっと詳しく学びたい。
- ・コミュニケーションスキルはシリーズ希望します。

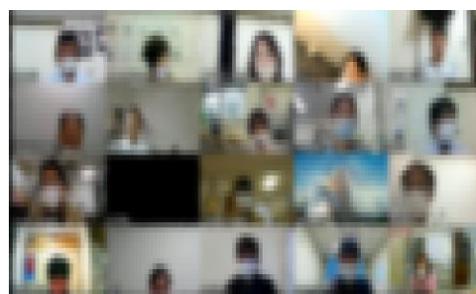
講師

木村 和弘氏(社会福祉士)  
NPO法人エナガの会 副代表理事



医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー  
・社会福祉士・介護福祉士

救急隊、警察、社会福祉協議会・市役所・区役所・自治会



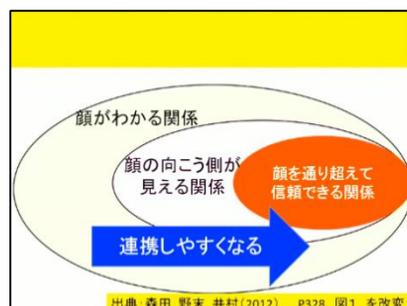
【参加者】

垂水在宅医療勉強会  
職種間コミュニケーション  
～2022年4月23日～

【アーカイブ配信画面】

#### 対人援助を行うための 知識・価値・技術の特徴

- ①実体がなく、分かりにくい。
- ②知識は具体的な行動に変換しないと使えない。
- ③頭で理解、実行、体感して、初めて腑に落ちる。
- ④体感的理解を自分の言葉で言語化することで定着



今後の  
活動予定

オンライン研修  
**在宅療養と服薬課題**  
日時：7月16日(土)14:00~16:00

約2年  
半ぶり

参集型研修予定  
**第4回垂水事例検討会**  
日時：8月27日(土)14:00~15:30  
会場：垂水区医師会館2階

対面で会うのを楽しみにしています！